

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議
(第14期 第1年 第4回 第1日)
ぎじろく
議事録

- 1 日時 2023(令和5)年1月15日(日) 午後2時00分～5時00分
- 2 場所 川崎市国際交流センター
- 3 出席者
しゅつせきしゃ
(1) 代表者 19人
あぶどうる じやりる、いとウ ユリカ キヤレン、グエン チュン ザン、
どうまやオス アリヤン、のだ ゆわリー、ヒリストバ ガブリエラ、フィゲイロ
キム リリアン、ペレーラ ラヒル サンケータ、ムハマド アイマン アリフ、
やん ついー ゆでく まるちん、ゆん じは、り かんかん り しん りゅう えいけつ りゅう
晨、林 芳安、レイバーマン ケビン、ロディーニ フェデリカ
(2) 事務局
さとう かちょう すがはら たんとうかちょう さとう かちょう ほさ、やまもと たんとうかかりちょう いがらし
職員、高橋 専門調査員
- 4 傍聴者 1人
- 5 会議次第(公開)
(1) 開会
(2) 事務局説明
(3) 議事
(4) 事務連絡
(5) 閉会

【全体会】

ペレーラ委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議、2022年度第4回第1日を開催する。今日はグエン ヌー フォン ザンさん、バさん、ブリツイナさん、マイさんが欠席だ。それでは、今日の日程と配布資料の確認について、事務局から説明をお願いします。」

(事務局佐藤課長補佐が説明)

ペレーラ委員長「次に、前回会議のまとめについて、事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。(なし) それでは、議事に入る。まずは、代表者の欠員と補充についてだ。事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料2に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。(なし) 何か意見はあるか。(なし) それでは、案のとおり、補充しないということで賛成の人は手を挙げてください。(18人)では、補充はしないということで決めた。今後は23名で続けていくことになる。次に、提言の取組状況について、事務局から説明をお願いします。」

(事務局五十嵐職員が資料3に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。」

林委員「取組状況の評価をしているのかどこか。」

事務局五十嵐職員「担当局が自己評価している。」

林委員「担当局からの自己評価に対して、事務局が確認してもう一度検討してもらおうようなこともあるのか。」

事務局五十嵐職員「ある。」

ペレーラ委員長「ほかに何かあるか。(なし)では、次は2022年度年次報告書についてだ。事務局から説明をお願いします。」

(事務局五十嵐職員が資料3に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。(なし) 次の議事はオープン会議の振り返りについてだ。事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料4に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。」

ロディーニ委員「高齢者の介護というと広すぎるので、もう少し具体的にテーマを絞

らないといけないのではないか。」

ペレーラ委員長「説明にもあったが、まずは次回の会議で勉強してから、テーマにするかどうか決める。」

ロディーニ委員「勉強会には、専門家の人が来るのか。」

ペレーラ委員長「次回は事務局が資料を準備して説明する。そのあとで、必要があれば専門家などを呼ぶこともできる。」

ロディーニ委員「もしテーマに追加することになった場合、どちらの部会で審議するのか。それとも、新しく部会をつくるのか。」

ペレーラ委員長「どうやって審議していくかも含めて、まずは次回の会議で勉強しようという段階の提案だ。」

レイバーマン委員「これまでの代表者会議で、途中からテーマを追加したことはあるか。」

事務局高橋専門調査員「私の知る限りはない。ただ、今回のように追加を検討したことはある。検討した結果、追加しなかったということだ。」

ペレーラ委員長「ほかに何かあるか。（なし）高齢者の介護以外に追加するテーマの候補はあるか。（なし）では、2月の全体会で高齢者の介護について勉強することに賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）このあとは、部会審議だ。全体会の再開は16時35分とする。」

【安心生活部会】

ヒリストバ部会長「それでは、部会を始めたい。今日の審議テーマは産後支援制度についてだ。まずは事務局から今日の部会審議について説明をお願いする。」

（事務局五十嵐職員が資料5に基づき説明）

ヒリストバ部会長「何か質問はあるか。（なし）では、議事に入る。事務局から説明をお願いする。」

（事務局五十嵐職員が資料5-1に基づき説明）

ヒリストバ部会長「私から質問してよいか。ヘルパー派遣事業は体調不良のときに使える制度となっているが、7日前までに予約が必要ともなっている。7日前までに体調不良になるかはわからないと思うのだが、どういうことか。」

事務局五十嵐職員「基本的には急な体調不良というよりは、産前のつわりや産後の体調不良ということだと思う。」

ヒリストバ部会長「楊さんは実際に使ったことがあるとのことだったが、どうだっ

たか。」

楊委員「私も、体調不良というときに、どこまでの体調不良で利用できるのかわからなくて、最初に利用するときに躊躇した。出産した直後は、多くの人が体調不良だと思う。もう少し説明の仕方を変えると利用しやすくなるかと思う。」

ロティーニ委員「利用は無料か。市が負担してくれるのか。」

事務局五十嵐職員「資料5-3の裏に利用料金が書いてある。利用するサービスや世帯区分によって利用料金が異なる。」

ロティーニ委員「どのサービスも日本語だけだと思うので、難しいかもしれないが日本語が話せない人のために通訳のサービスがあるとよいと思った。」

楊委員「ふれあい子育てサポート事業のヘルパーさんで、外国語が話せる人とマッチングしたりすることはできるかもしれないし、ほかのサービスを利用するときに同行してもらったりという連携がとれるとよい。」

劉英杰委員「産後ケアについてだが、ちょうど近々子どもが生まれるので区役所に行ったら、制度を紹介された。宿泊型の利用施設が限られていて、たとえば私は大田区のほうが近いのだが、大田区の施設が使えるかはわからない。日本語での紹介はたくさんあるが、ホームページの多言語ページでは子育てに関しては入学手続きに関してしかなかった。日本で出産して区役所などに行くで紹介してもらえるのかもしれないが、そうではない場合にはなかなか情報にたどり着けないのではないかと思う。」

ドウマヤス委員「日本では、妊娠した時にどのような支援制度があるのかは、どこに行けばわかるのか。病院や区役所に行けば知ることができるのか。」

フィゲイロ委員「私も病院に行ったら区役所に行くように言われて、主人と一緒にいった。母子手帳をもらって、1時間くらい説明を受け、いろいろと資料ももらったがわからなくて、読まなかった。英語版の母子手帳をもらったのは助かった。いろいろと制度があるが、利用料がかかるのが嫌で使えなかった。病院だったら1年間は助産師さんから無料で指導してもらえるので。子どもの体重が気になって、体が痛くても毎週バスで病院に通った。あとは、家に訪問に来てくれたのは助かった。日本語しか話せなかったが、いろいろと丁寧に説明してくれた。区役所のサービスも紹介してくれた。区役所からも、日本語だが手紙が届いてワークショップや支援センターのことを知った。支援センターで日本人のママと交流ができて、いろいろとアドバイスをもらった。保育士からも母乳や離乳食のことなどを聞いて助かった。」

楊委員「市の制度については区役所に問い合わせをして情報をもらった。出産や医療的なことに関しては、病院に問い合わせをした。」

劉英杰委員「先ほど、母子手帳の話が出たが、そもそも外国人が母子手帳を知っているか、というところから考える必要があると思う。もう1つ、日本人と結婚するパターンと外国人同士が結婚するパターンで、子どもの国籍がどうなるのかは紹介があった方がよいかと思った。資料をたくさんもらうという話もあったが、かなり早い段階でもらうので、日本人でもちゃんと読んでいくかわからないが、やはり外国人だとよくわからないと思う。」

ロティーニ委員「母子手帳についてだが、私は去年、転居した時に初めて母子手帳が必要だと言われた。何に使うのかを聞いたら、学校で使うと言われて、区役所にもらいに行った。ワクチンの記録などがあるので、子どもが大きくなって使うことがあるのだと知った。」

事務局五十嵐職員「母子手帳に関しては、2015年度に提言が出ていて、外国語版の提供、広報・周知に関してはAということになっている。」

ヒリストバ部会長「残り時間が少ないが、ほかに何かあるか。」

楊委員「川崎区では10人に1人が外国籍の親というのが興味深かった。それと、0歳から4歳の外国籍の子どもの比率が全体よりも高かったので、この問題にフォーカスする価値があると感じた。」

フィゲイロ委員「日本の助産師はすごくよいサービスなので、もっと多くの外国人に何ができるのかを知ってもらえるとよい。」

ドウマヤス委員「経験者の話を聞いて、改善できるポイントが3つあると思った。1つ目は、せっかくさまざまな情報があるので、その周知は重要だ。2つ目に、外国語が難しくても、区役所での対応や案内をやさしい日本語でもしてもらえるとよい。3つ目に、手続きや申請書の多言語化は必要かと思った。」

ヒリストバ部会長「ほかに何かあるか。(なし)では、産後支援制度についてはここまでとする。次回の審議テーマは外国籍のひとり親支援だ。事務局から説明をお願いします。」

(事務局五十嵐職員が資料のリクエストについて説明)

ロティーニ委員「ひとり親世帯がどのくらいいるのか、できれば外国籍のひとり親世帯がどのくらいいるのか知りたい。あとは、そもそもどのようなサービスや制度があるのか、それをまとめたものがあるのか知りたい。私が日本に子どもを連れてくると決めた時に、アメリカ人が英語で書いたブログを参考にした

が、どこまで正しい情報かわからなかった。もし、これから日本で働きたい
と
思っている人に紹介できればと思う。」

フィゲイロ委員「制度が利用できる在留資格のことや離婚や別居した時にことなどを
知
りたい。」

楊委員「離婚のように予定していたパターンと突然ひとり親になるパターンがあると
思
う。突然のケースだとパニックになるし、離婚する相手が日本人だと不利な
立
場になると思う。そういった緊急時の対応として何かあるのか知りたい。」

刘英杰委員「そもそもひとり親の支援制度としてどのようなものがあるのかを調
べ
る必要があるが、外国人だけを特別扱いするようなことはできないだろう。
他
都市で、どのような制度があるのかは調べてもよいかもしれない。」

ヒリストバ部会長「ほかに何かあるか。(なし)それでは、今日の部会審議は
こ
こまでとする。」

【情報・社会部会】

イトウ部会長「それでは、時間になったので部会を始めたい。今日の審議テーマは
情
報についてだ。まずは、今日の部会審議について事務局から説明をお願いす
る。」

(事務局高橋専門調査員が資料6に基づき説明)

イトウ部会長「何か質問はあるか。(なし)では、さっそく議事に入る。
事
務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料6-1~6-2に基づき説明)

イトウ部会長「次に、ウェルカムセットのサンプルを用意してもらったので、5分
ほ
ど時間をとるので手に取って見てください。」

(ウェルカムセットを確認)

イトウ部会長「それでは、何か質問はあるか。」

ペレーラ委員長「このワンストップセンターのチラシはいつから配り始めたのか。」

事務局菅原担当課長「たしか、一昨年の12月だったと思う。」

レイバーマン委員「ウェルカムセットは区によってバラつきがあるようだが、なぜ
か。」

事務局高橋専門調査員「ウェルカムセットに関しては、4回提言して実現したという
経
緯がある。なかなか実現しなかったのは、セットを組むのが大変だからだ。
宮
前区が充実しているのは、職員ではなく、まちづくり協議会の人たちが組ん

でいるということがある。」

林委員「外国人市民意識実態調査についてだが、川崎市に住んでいる外国人全員に送ったのか。あるいは、どこかの施設などで配布したりしたものなのか。」

事務局高橋専門調査員「対象は18歳以上の外国籍の人で、5,000人を住民基本台帳から無作為抽出した。」

レイバーマン委員「「備える。かわさき」の多言語版はあるか。」

事務局高橋専門調査員「ある。」

刘晨委員「ウェルカムセットがなかった2015年より前に転入してきた人には何か渡していたのか。」

事務局高橋専門調査員「2015年より前でも窓口ではさまざまな資料などを渡していた。」

李敏敏副委員長「いろいろな情報がたくさんあるが、重要度をつけたりはできないか。生活便利ガイドと防災マップだと、防災マップのほうが重要度が高いのではないか。」

事務局高橋専門調査員「行政の立場からすると、どれも重要な情報だと考えているから渡しているのですが、重要度をつけることは難しい。受け取る人によっても、重要度は違ってくると思う。」

林委員「2点ある。1点目に、情報に関してはすでにたくさんあるので、新しいものが欲しいというよりは、今あるものをいかに届けるかがポイントだと思う。資料にもあるように、生活情報の入手方法としてはやはりインターネットが多いので、そこをもう少し掘り下げて、たとえばLINEのアカウントをつくらうかどうか。2点目に、QRトランスレーターは直感的でとてもわかりやすかったのだから、ここにもLINEから飛んでこられるとよいと思う。」

李晨委員「私の印象としては、ウェルカムセットも含めて思ったよりも充実していると感じた。「外国人の皆さんへ」を見れば、どこに連絡をすればよいのかはわかる。ここまでの議論を聞いていると、提言を出すことが目的になってしまっているが、私たちがしなければならないのは、本当に困っていることは何で、それを解決するためにどうすればよいのか、ということではないか。誰でもそうだが、最初から何でも知っている人はいない。誰でもわからないことは調べるはずだ。みなさんに聞きたいのは、みなさんが本当に困っていることは何か。そこから出発すべきではないか。」

レイバーマン委員「個人的には、ワンストップセンターは大切な入口だと思うので、

ワンストップセンターの存在をもっと周知するための提言が何かできないかと思う。」

事務局高橋専門調査員「市もいろいろな取組はしているところなので、わざわざ提言にしなくても、取組はすると思う。」

イトウ部会長「私も情報を審議テーマの候補として挙げたのだが、実際にこうやって資料を準備してもらったり、自分で調べてみたりすると、意外と情報はあると思った。こうやって勉強して知っていくことも大事で、無理に提言しなくてもよいのではないかと感じている。」

林委員「正直、私個人としては川崎市に住んでいて困っていることはない。ただ、結婚して、今後、出産したりなどしたときに悩みはできるかもしれない。」

イトウ部会長「時間になったので、ひとまず今日はここまでとする。残りの時間は次の会議に向けてだ。事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料のリクエストについて説明)

イトウ部会長「それでは、何かリクエストはあるか。私は外国人が委員になっている会議について知りたい。」

ペレーラ委員長「川崎市の中で、過去に参政権に向けた動きがあればそれを知りたい。それと、住民投票条例が実際に実施されるときに、どのような資料が送られてきたりするのかわかりたい。」

イトウ部会長「それでは、時間になったので、今日の部会審議はここまでとする。」

【全体会】

ペレーラ委員長「それでは、全体会を再開する。まずは、部会報告だ。情報・社会部会から報告をお願いします。」

イトウ部会長「今日は情報について審議した。ウエルカムセットの現状を確認したり、リニューアル予定のホームページについても説明を受けたりした。QRトランスレーターや国際交流センターの相談窓口など、ほかにも情報はたくさんあるがあまり知られていない、なかなか届いていないという状況なので、どうやって情報を拡散するかということが課題だという認識になった。情報を届けるためのアイデアの1つとして、LINEを使ったらよいのではないかという意見が出た。また、本当に困っている人がどのようなことに困っているのかを具体的に知ることが必要だという意見も出た。」

ペレーラ委員長「今の報告について、何か質問や意見はあるか。（なし）では、
続いて安心生活部会の報告をお願いします。」

ヒリストバ部会長「今日は産後支援制度について審議した。主な意見としては次の
2つだ。1つ目は、日本人も含めてたくさんある制度があまり知られていない
ことと、現状では日本語の資料しかないことだ。2つ目は、たとえば母子手帳
のように、赤ちゃんができた時から、日本人からしたら当たり前かもしれない
流れについて、外国人は知らないことが多いというものだ。」

ペレーラ委員長「今の報告について、何か質問や意見はあるか。」

林委員「知られていない、という課題は情報・社会部会の今日のテーマと重なると思
う。正副委員長・部会長会議などで情報交換したりしながら、うまく調整し
てもらえるとよいのではないか。」

劉英杰委員「1点、情報共有だが、現在の川崎市のホームページには外国語版の
ページと機械翻訳があるのだが、外国語版のホームページには子どもに関して
は就学に関する情報しかない。」

ペレーラ委員長「ほかに何かあるか。（なし）それでは、次は実行委員会報告だ。
交流イベント実行委員会の報告をお願いします。」

ヒリストバ部会長「2月18日に開催される多文化フェスタさいわいについてだが、
市民祭りとは違った雰囲気になると思う。主催者からロビーでのカフェの依頼
を受けているが、代表者会議としてのPRもしたいので、ブースも設けて欲し
いということになった。あとは、同じ団体だとわかるように、名札の色を青に
統一するということにした。あらためて事務局に出欠確認はとってもらうが、
大まかな人数を把握したいので参加予定の人は手を挙げてください。
（挙手）」

ペレーラ委員長「今日の議事は以上だ。事務局から事務連絡をお願いします。」

【事務連絡】

- ・多文化子育て交流ひろばについて
- ・中原区総合防災訓練について

ペレーラ委員長「これで、今日の日程は終了だ。次回の会議は2月19日、日曜日
に、ここ国際交流センターで開催する。これで、2022年度第4回第1日の
会議を終わりにする。」